

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年4月9日（木）

2 確認箇所

B排水路、C排水路及びその周辺（図1）

3 確認項目

B排水路、C排水路及びその周辺の現況

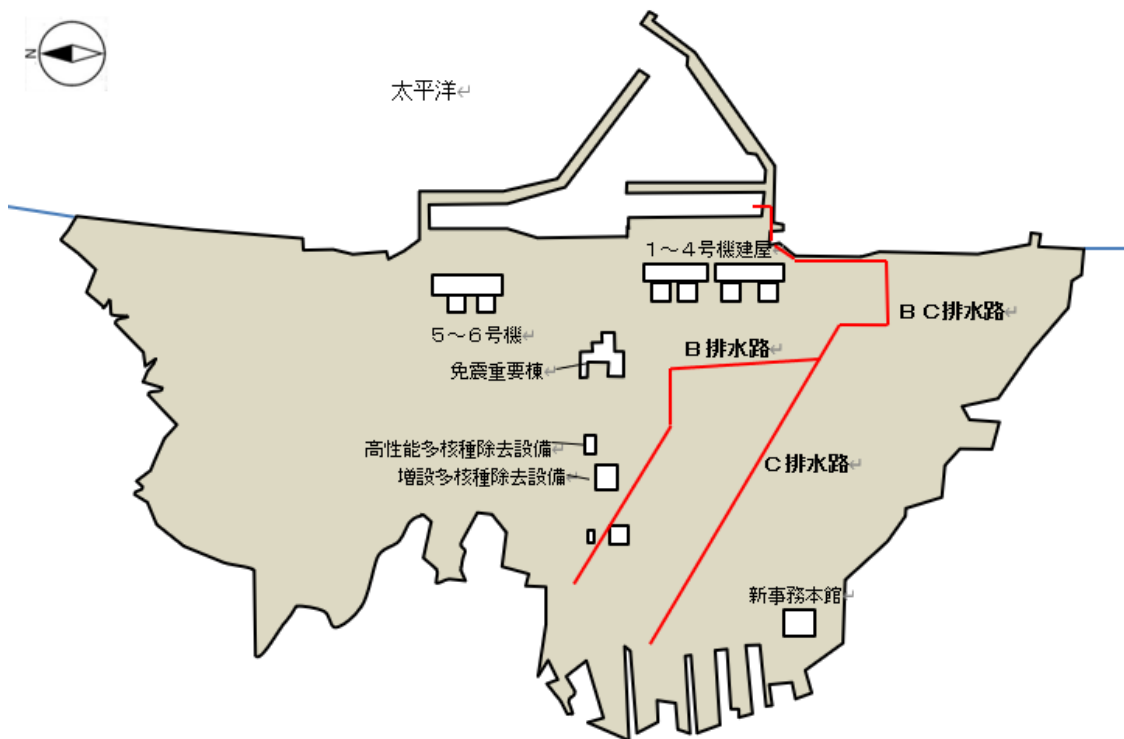
4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所構内には、震災前から主要な排水路としてA排水路、B排水路、C排水路、K排水路及び物揚場排水路が設置されている。また排水については、放射性物質濃度の監視のため、毎日1回の採水し、分析を行うほか、弁別型P S Fモニタ^{*}による連続監視が行われている。

県では定期的に排水路やその周辺の状況確認を行っており、今回、B排水路及びC排水路（接続後はB C排水路）について、状況を確認した。（前回確認：[令和7年11月26日](#)）

※P S Fモニタ：排水路等の放射能濃度を連続監視するための放射線検出器。降雨によるフォールアウトの影響（放射性C sに起因する γ 線）で指示値が上昇する傾向があるため、 β 線+ γ 線の検出部と γ 線の検出部を有する弁別型のP S Fモニタを使用、それぞれの測定値の差を取ることで、 β 線（S rの寄与）が測定可能である。なお、東京電力ではすべての排水路において、P S Fモニタの放射性物質濃度の警報値を、高高警報（検知した際に排水路ゲートを「閉」対応）で1500Bq/L、高警報（調査レベル）で750 Bq/Lと設定している。

- ・確認した範囲において、排水路やその周辺において外観上の異常は認められなかった。（写真1）
- ・排水路へ放射性物質が流入した場合の流下拡大防止策として設けられている電動開閉ゲートを確認したところ、「開」状態になっていた。また、当該ゲートや設備の異常等は認められなかった。（写真2）
- ・排水路周辺をサーベイメータで測定したところ、高い指示値を示す箇所は確認されなかった。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
B排水路の状況



(写真1-2)
C排水路の状況



(写真1-3)
BC排水路の状況



(写真2-1)
電動開閉ゲート (BC-b) の状況



(写真2-2)
電動開閉ゲート (C-1) の状況



(写真3-1)
県職員による汚染状況測定の様子①



(写真3-2)
県職員による汚染状況測定の様子②



(写真3-3)
県職員による汚染状況測定の様子③

5 プラント関連パラメータ等確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。